さざなみ

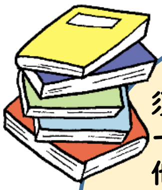
須崎市教育研究所　発行
第１号　令和６年４月19日

ごあいさつ

令和６年度が始まりました。学校教育関係の皆様方におかれましてはご多忙の毎日をお過ごしのことと存じます。日頃は、須崎市教育研究所の事業にご理解・ご協力いただきまして、ありがとうございます。

さて、須崎市教育研究所の歴史は長く、今年で38年目を迎えました。本研究所は「須崎市教育の振興を期するため、学校、保育園、幼稚園、教育関係諸団体、保護者及び地域の人たちと連携し、教育実践上必要な諸問題について調査研究するとともに、須崎市の子供たちの生きる力を育むため、教育関係職員の研修や推進プロジェクトを助成するもの」として設立されました。その理念を引き継ぎ、今年度も須崎市の子供たちの健やかな成長と教育の振興を目指して各種教育団体と連携しながら取り組んでまいります。また、最前線で子供たちを指導する先生方の貴重な実践を市内で共有し、市内全体として高めあえるようにサポートしていきたいと思います。特に今年度は以下の通り「心理的安全性」や「複線型の授業」、「個別最適な学習と協働的な学習」を研究の柱としております。こうした内容に関連する取組や授業実践を行う場合は、是非事前に教えていただければと思います。参観や支援をさせていただき、研究に生かしたいと考えております。また、ご要望があれば提案授業をしに伺わせていただくこともできますのでご相談ください。

今年度も、変わらぬご支援とご協力をお願いいたします。



須崎市の教科書センターは常設展示です。他の出版社の単元の扱い方、校種間の繋がりなどが気になるときは、是非教科書センターの教科書をご活用ください！

令和６年度　主な事業

①　教育における今日的課題についての調査研究
　〇心理的安全性が確保された学級・集団づくり
　〇個別最適な学習を実現する複線型の授業づくり
　〇不登校・不登校傾向の児童生徒に係る諸問題の改善
②　教職員研修の実施・運営
③　教育支援センターの活動支援
④　読書活動の推進
⑤　教科書センター業務

西山ＳＳＷ　西森ＳＳＷ　市原ＳＳＷ
チェルシーＣＩＲ 吉田所長 西本研究教諭
「精一杯頑張ります！」

【場　所】須崎市総合保健福祉センター3Ｆ
【電　話】0889-40-0078
【ＦＡＸ】0889-40-0073
【E-mail】susaki-l@city.susaki.lg.jp
【職　員】
所　　長：吉田晋二
研究教諭：西本一也
ＳＳＷ：西山由美子 西森千世 市原梨沙
ＣＩＲ：Chelsea Marie Lopez

心理的安全性とは

今年度、教育研究所として「心理的安全性が確保された学級・集団づくり」の研究を進めていきたいと考えています。「心理的安全性」とは、簡単に言うと以下のように説明されます。

> 誰もが、拒絶されたり罰せられたりする不安や、恥ずかしさを感じることなく、自分の意見を述べることができる集団の雰囲気

これは、1999年にハーバードビジネススクールの教授、Amy・C・Edmondson(エイミー・C・エドモンドソン)が、自身の論文「Psychological Safety and Learning Behavior in Work Teams(作業チームにおける心理的安全性と学習行動)」で紹介している概念です。Googleが2012年に開始した、生産性の高いチームの共通点を見つける調査(プロジェクトアリストテレス)がきっかけで、私たちも耳にすることが増えたと思います。

心理的安全性を確保することは、児童生徒が本来の力を発揮できる土台を作ることと言えます。学校現場においては、これまでにも「安心して失敗ができる学級」「自分を出せる学級」「のびのび過ごせる学級」など、表現こそ違いますが、多くの先生方が心理的安全性の確保された学級を目指してきたのではないかと思います。心理的安全性が確保された学級では、児童生徒は間違いや失敗を非難される不安から解放され、自由に自分の考えを伝えられるようになります。対話が増え、学習や学級活動に主体性をもって参加するようになるでしょう。様々なことに挑戦する姿も見られるかもしれません。

逆に、心理的安全性が確保されていない状態（心理的危険な状態）では、脳が正常に機能せず、闘争【Fight】・逃走【Flight】・凍結【Freeze】反応をするそうです。（近年ではFawn：媚びる も含めて４Ｆ反応と言うこともあるそうです。）場にふさわしい行動を知らない、という場合を除けば、児童生徒の問題行動は多くの場合、何らかの原因で心理的危険な状態になっていることに起因するのではないでしょうか。

心理的安全性が確保された集団に共通してある要素

話しやすさ
何を言っても
大丈夫！

助け合い
困ったときは
お互い様！

挑戦

とりあえず
やってみよう！

新奇歓迎

個性
どんと来い！

現在、ご自身の受け持っている、あるいは授業をしに行っている学級には、どの要素がどの程度存在していますか？また、これから働きかけをしていくとすればどの要素ですか？

教育研究所として研究を進めるにあたって、実際に学級担任をなさっている先生方には大変お世話になると思います。どのような取り組みがこれらを生み出すことに繋がるか、どうすればこれらが児童生徒の中に文化として根付くかを、実践をする中で一緒に考えていきたいと思っています。どうぞ、よろしくお願いいたします。